

パブリックコメントでの意見の内容とその対応案

寄せられた意見	意見への対応方針
<p>【中高生の意見をこの計画に】</p> <p>本計画は今後 36 年間の計画となるが、意見を述べる市民も作成した担当者、決定する市長も 36 年後は現役であることは難しい。いまの中学生や高校生が施策の中心を担っている世代である。このことから、中高生を対象とした説明会を開催し、意見を求めてほしい。</p>	<p>本計画の取組みについては、広い世代に周知を図ってまいりました。将来を担う子どもたちに負担を残さないために、まずは成人世代がこの課題に向き合う必要があると考えています。また、中高生に限らず市内の団体、グループ、クラスを対象とした出前講座を企画した経緯もあり、今後も多くの市民の意見を聞く取組みを進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">《担当：財務部行政経営室》</p>
<p>【地区センター体育館の廃止に反対】</p> <p>「地区センターと体育館はセットでの運用が理想」との意見に対して、市は「利用実態に見合う形で調整を検討する」と回答を示しているが、付帯する体育館は『協働のまちづくり』の要の場所である。一括廃止ではなく維持しながら住民の減少等に伴う活用状況を勘案した上で存続・廃止を決定する含みがほしい。</p>	<p>地区センターの本館部分と付帯する体育館については、全地区センターとも、それぞれ個別に捉えて計画を策定しているものです。地区センターの本館部分については、全ての施設で維持・継続の方向で計画しております。体育館部分については、今後、将来的な利用状況等を考慮しつつ、他施設への機能集約も見越しながら最低限の維持を施し、通常利用可能なうちは取壊し等の施設閉鎖は行わない計画としておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">《担当：協働まちづくり部地域づくり推進課》</p>
<p>【佐倉河幼稚園の廃止に反対】</p> <p>8時 30 分から登園し 14 時に帰宅する幼稚園では園児は集まらない。子育てしやすい佐倉河地区に新築する若い家庭が望むのは保育園である。幼保一体施設を整備することが地域振興に繋がって行く。民営化に任せ幼稚園教諭や保育士を削減することは「住みやすいまち」に逆行する。</p>	<p>佐倉河地域には未就学児が多く、保育ニーズも高い一方、幼稚園の利用は低下しています。またそれらの背景等から水沢地域には民間施設の参入意向が多く、ここ数年で小規模保育事業所（19 人以下の定員の保育所）等も整備が進み、これにより令和 3 年 4 月には待機児童の解消も一定程度果たされるものと見込んでいます。今後は、年度途中においても待機児童が発生しないよう、民間施設の運営状況や人口推移にも留意し必要な保育ニーズを見極めてまいります。幼保一体施設の整備に関しては地区振興会からも要望書の提出がありましたことから、地域の意見を確認し、施設の創設や適正な定員数については、審議会の意見をいただきながら進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">《担当：健康こども部保育こども園課》</p>

寄せられた意見	意見への対応方針
<p>【放課後児童クラブに高学年を対象に】</p> <p>施設の規模を理由に低学年のみを対象としているが、共働き家庭が多く高学年の受入希望も多い。社会福祉協議会などにクラブの運営を委託している現状だが、県内ではシルバー人材センターに委託している自治体もある。運営を委託する人員を確保し高学年を受け入れることを検討してほしい。</p>	<p>放課後児童クラブにおいて待機児童が発生しているのは、主に施設の広さ等による定員超過が原因であり、高学年であることや職員不足を理由に受け入れを制限しているものではありません。共働き世帯の増加により、利用希望が年々増加していますが、小学校の余裕教室等の活用も視野に入れながら、待機児童解消を目指し、サービス提供を今後も継続してまいります。</p> <p>なお、児童の受け入れにあたっては、家族の状況の他、発達段階等を勘案しており、一人親家庭の児童や発達に課題を抱えた児童等、支援の必要性が高い児童については高学年でも受け入れています。</p> <p style="text-align: right;">《担当：健康子ども部子ども家庭課》</p>